

自己点検評価報告書

【対象期間】 自：令和7年4月 1日

至：令和8年3月31日

令和8(2026)年4月

学校法人創心会 西日本看護専門学校

自己点検評価報告書

本校では、平成17年度から教育水準の向上と専修学校としての目的・社会的使命を果たすために自己点検評価を開始し、平成30年度からは、自己点検評価内容を検討し、「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿った点検評価を行い、その公表を開始した。令和5年度からは、一般社団法人全国専門学校教育研究会によって開発された「自己点検・評価モデル 共通的評価基準モデル2022」を用いて全教職員による自己点検評価を行ってきた。

令和6年には、「学校教育法の一部を改正する法律」(令和8年4月1日施行)が公布され、大学と同等の項目での「自己点検評価」の実施が義務化されることとなり、令和7年6月には文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」が改訂された。これにより、評価項目(大項目)が11項目から6項目に削減され、評価結果も4段階から3段階へと変更となった。また、評価結果については、各校が「3」をめざすべき、というものではないと言われている。

本校においては、これまで実施してきた自己点検評価を継承しつつ、改定されたガイドラインをもとに自己点検評価に取り組んだ。この評価をもとに教職員全員が、学校全体を理解したうえで、より良い教育に向けて取り組んでいきたいと考えている。その一環として、本校は職業実践専門課程認定校ではないが、職業実践専門課程認定校に関する項目についても評価を行っている。

評価項目(大項目)

1. 教育理念・目的・目標
2. 教育課程、教育の実施、学修成果
3. 学生の受入れ、学生支援
4. 教育実施組織・教員
5. 教育環境
6. 教育活動の基盤と改善・向上の取組

評価

- 3:基準を満たしており、特筆すべき取組を行っている
- 2:概ね基準を満たしている
- 1:基準を満たしておらず改善が必要

I. 教育理念・教育目標

〈教育理念〉

本校は専門職業人として広く地域に貢献できる看護師を育成する。

看護は、「あらゆる健康状態にある人々が、その人らしく生活できるよう援助すること」である。そのためには、生命を尊重する心、豊かな人間性、専門的知識や技術、医療従事者としての高い倫理観が求められる。さらに、現代社会においては、多職種と連携を図り多様化する看護実践の場に対応できる能力を持ち、自律した専門職業人として地域社会への貢献と看護の発展に寄与する看護師が求められている。

本校は、人間を深く理解し、ひとりひとりの生命を尊重することができる人間愛に富んだ看護の心と医療従事者としての倫理観の育成を基本姿勢とする。さらに、主体的で自律した看護の実践者として知識と技術を修得し、豊かな人間性をもった地域に貢献できる人材を育成することを教育理念とする。

教育にあっては、さまざまな看護の経験や豊かな学習環境の中で、学生ひとりひとりの持つ能力を最大限に引き出し、ひとりひとりを大切に看護師として育成していきたいと考える。

これらをもって「ひとりひとりを大切に心のこもった看護を実践する」看護師の育成を行う。

〈教育目的〉

看護の実践者としての必要な知識と技術を教授し、学習活動を通じて看護の心と倫理観を育てるとともに社会人として調和のとれた人間教育を行い、地域に貢献できる看護師を育成する。

〈教育目標(人材育成像)〉

1. 人間を身体的、精神的、社会的、霊的に統合された存在として、また、生活者として理解できる。
2. 人間の生命と人間としての尊厳を尊重できる。
3. 豊かな感性をもち、人間関係を築き、発展させることができる。
4. 看護の対象を理解し、健康のあらゆる状態に応じて、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。
5. 保健・医療・福祉制度と多職種の役割を理解し、多職種との協働を通じて看護師の役割を理解し、看護を実践できる。
6. 看護師としての倫理観をもち、責任ある行動をとることができる。
7. 看護を探究し、自ら学び続ける力を身につけることができる。
8. 専門職業人として社会性・自律性を身につけることができる。

【入学生受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)】

1. 看護師になりたい強い意志をもっている人
2. 看護学を学ぶための基礎学力があり、意欲的に学び続けられる人
3. 規範を守り、誠実な言動・行動がとれる人
4. 他者への関心を持ちコミュニケーションが図れる人
5. 健康や生活に関心を持ち生活態度が自律している人
6. 何事にも努力し、諦めない心を持っている人

【カリキュラム・ポリシー】

本校では、教育理念及び教育目標(育成人材像)に基づいた看護専門職者の育成を目指し、さらにデュプロマ・ポリシーを達成するための教育課程を編成しています。

1. 3年間で104単位・3,055時間を修得する教育課程を編成しており、「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」から構成している。それぞれの科目は、ねらいと教育内容を明らかにし、教育内容をもとに他の分野・科目との関連性を考慮しながら教育課程を編成している。
2. 3年間の学修を通して基礎的な内容から専門的・応用的な内容へと段階的に学修を積めるように教育課程を編成している。
3. 各科目はグループによる演習を取り入れ、また臨地実習を通して、他者と関わる力やコミュニケーション能力、協調性、他者を尊重する姿勢、倫理的態度、リーダーシップを養う。
4. 各看護学では、事例やシミュレーションを活用した授業を通して、看護の現象を多角的に捉え、論理的思考をもとに分析、統合する力を育成する。これらの学習をもとに臨地実習で遭遇する看護場面における臨床判断能力、看護実践能力を育成する。
5. 専門基礎分野・専門分野においては、保健・医療・福祉に関わる様々な専門職とチームとして協働することについて理解する。さらに、臨地実習においては医療チーム、また保健医療福祉チームの一員として看護活動に参加し看護職の役割を理解し、看護が実践できる力を育成する。
6. 様々な学習活動での経験をもとに省察を行い、課題を見出し、主体的な学習が行えるよう支援する。また、臨地実習での看護実践から看護を省察・探求する姿勢を養い、自らの看護観を表現できるようにする。
7. 看護師として、また社会人として身につけてほしい基礎的能力(社会人基礎力)を段階ごとに示し、講義や演習、実習、教課外教育活動などの多様な学習形態を通して社会人基礎力を身につけるカリキュラムとする。
8. 演習や実習等では少人数のグループによる学習を取り入れ、学生ひとりひとりを大切に個別性に応じた指導を行うカリキュラムを編成する。

【デュプロマ・ポリシー】

本校では、教育目標に沿って設定した授業科目を履修して所定の単位を修得するとともに、豊かな人間性と倫理観をもち、看護の実践者として知識と技術を身につけ、学び続ける姿勢をもった学生に卒業を認定し、専門士(医療専門課程)の称号を授与します。

Ⅱ. 令和7年度の重点目標とその評価

重点目標	評価
1. 教育DXの取り組みの推進	厚労省「看護師等養成所DX効果検証事業」に選出され、学内の基盤整備(Wi-Fi設備、教員の授業用PC導入)、ICTを活用した授業、校務システムの導入に取り組んだ。ICTを活用した授業や演習においては一定の成果が見られており、今後も継続して取り組んでいく。令和8年度から校務システム(学生ポータルシステム)が本格運用となる。学生の主体的学修につながるよう支援を継続する。
2. 学生の臨床判断能力育成	上記ICT機器を活用した授業や演習を通して、臨床判断や看護実践につながることを示唆された。今後は、どのように判断力を育成するのか、そのために必要な学習内容を検討し、引き続き取り組んでいく。臨地実習では、指導者とも協力しながら看護場面における判断やその根拠の指導を行っている。
3. 看護師国家試験全員合格	・第115回看護師国家試験を48名が受験し、45名合格、3名が不合格となった。 ・今回の国家試験では基本的な知識を問われる問題が多く、難易度は前回ほど高いものではなかった。学生の主体的な学習姿勢を引き出せなかったことが課題と考えている。学習姿勢が身につけていない学生や、取り組みの甘い学生にどのように動機づけ、指導していくかが課題である。
4. 教員の能力向上	・教員の能力向上のため、全教員へ研修参加を促し、今年度は12件の研修・学会に参加した。令和6年度より研修参加が少なくなっているが、DX効果検証事業のためのICT機器の活用など授業の変更や準備、機器の使用方法的な習得などに時間を費やしたことが要因と考えている。これらの機器の使用による教育活動の変化による教授能力の向上につながることを期待している。 ・令和5年度入職の教員1名は、令和7年度福岡県専任教員養成講習会の受講が終了した。令和8年度は全員が教員資格を有する教員となる予定である。
5. 令和8年度入学生の確保	・高校訪問の増加、進学相談会への積極的参加などを行い、令和7年度に比し受験生は減少したものの、52名の入学予定者を確保した。 ・少子化の中で看護師を職業として選択してもらうために、小中高校でのキャリア教育へ積極的に参加し好評であった。 ・少子化、大学設立や学部新設の中で入学生を確保するための取り組みを検討していく。
6. 危機管理体制の整備	・令和8年度から運用予定の校務システム導入により教職員の安否確認体制を整備している。 ・大規模災害に備え、危機管理マニュアルの作成については今後作成予定である。
7. 自己点検評価方法の検討と実施、第三者評価に関する準備	・学校教育法改正に伴う学校評価の変更について全教職員に周知を行った。 ・自己点検評価については、新しいガイドラインに基づいて実施した。 ・第三者評価については日本看護学校協議会の動向を注視し、また他校の情報を得ながら準備を進めていきたい。

Ⅲ. 基準項目 自己点検評価

大項目1. 教育理念・目的・目標

小項目	評価の基準	評価結果
1 教育理念、目的及び目標の設定等	教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	2

【評価結果の分析】

教育理念、教育目的、教育目標(育成人材像)、学則、学則施行細則、各種規程については整備されており、法改正や学生、学内、関連機関等の状況に応じた見直しを行い改正している。令和7年度は、「学校教育法の一部を改正する法律」(令和8年4月1日施行)の公布により、学則の改正、及びそれに伴う学則施行細則をはじめとした諸規定を改正している。さらに、学校校務システム、ポータルシステムの導入に伴い情報管理に関する規程についても改正を行っている。

教育理念・教育目的・教育目標については、ホームページに記載している。教育理念、教育目的、教育目標(育成人材像)、学則、細則、各種規程は学生便覧に明記している。

【今後の改善方策】

学生の変化、社会から求められる人材像の変化に応じ、教育理念・教育目的・目標について見直しを検討する。

大項目2. 教育課程、教育の実施、学修成果

小項目	評価の基準	評価結果
1 教育課程の編成と授業科目	①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成した上で、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	2

【評価結果の分析】

教育目標に基づき教育課程を編成し、カリキュラム・ポリシーをもとに基礎的な内容から専門的・応用的な内容へと段階的に学修を積めるよう、また系統的に学習を進められるよう編成している。これらは、学生便覧に明記している。また、学生便覧には、厚生労働省の看護師等養成所の運営に関するガイドライン「別表13看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」と授業科目の関連、及び「別表13－2看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」の演習・評価を行う授業を、シラバスには授業科目と教育目標の関連や授業内で行う看護師教育の技術項目の確認方法について示している。

本校は進級基準を設けていないが、体系的に学修できるよう順次性を考慮し、臨地実習や一部の授業科目については、他科目の履修を先修要件として定め、履修規程やシラバスに明示している。

【今後の改善方策】

各看護学における教育内容について過不足がないか、また科目間の関連について協議し、全教員が学習内容・学習進度を理解したうえで授業を行えるよう検討する。

小項目	評価の基準	評価結果
2 教育の実施	①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	2
	②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という)の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注】職業実践専門課程】	2

【評価結果の分析】

授業科目の教育内容に応じ、講義や演習を組み合わせ、授業を展開している。令和7年度は厚生労働省「看護師養成所におけるDX効果検証事業」に選出され、教育用電子カルテシステムやデブリーフィング&データ管理システムを導入し、その効果も見られた。成績評価については学則施行細則、履修規程に基づいて評価しており、評価方法はシラバスに明記している。

実習においては、看護師養成所指定規則及び看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインをもとに教育目標の達成可能な実習施設で実習を行っている。令和7年度は実習施設の状況及び実習目標の到達を考慮し、3施設の実習施設変更・追加を行った。また、令和8年度にも1施設の変更(追加)を予定しており、その準備を進めている。実践活動の場以外で行う学習については、実習指導要綱に学習の目的、内容及び時間を明記しており、学内の取り決めとして各看護学実習の1割以内の時間としている。

【今後の改善方策】

学生の看護実践能力の向上につながるよう教育内容を見直し、導入された教育用電子カルテシステム、

デブリーフィング&データ管理システム等を活用し、シミュレーション教育をさらに発展できるよう取り組んでいく。また、令和8年度入学生から電子テキストをはじめ、PC(タブレット)を活用した授業が開始となる予定であり、効果的な授業方法についても検討していく予定である。

小項目	評価の基準	評価結果
3 単位・卒業認定	学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	2

【評価結果の分析】

卒業の認定については、学則、卒業認定規程に基づき、運営会議の議を経て卒業を認定しており、厳正に対応している。

【今後の改善方策】

社会のニーズに応じ、養成する人材像の明確化を図り、また、その評価が適切に行えるよう検討していく。

小項目	評価の基準	評価結果
4 学修成果目標の達成状況	①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得(資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得含む。)についての目標を定め、その目標が達成できていること。	2
	②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	2

【評価結果の分析】

本校は単科の看護専門学校であり、教育目標を定め、講義、演習、実習を通して看護師に必要な資質・能力を育成している。また、学生には社会人として必要な社会人基礎力についての講義、自己評価を行い、必要な能力の育成を行っている。

第115回看護師国家試験は、48名が受験し、45名の合格(合格率93.8%)であり、全国平均である88.3%を上回っている。

学生が望む進路の実現に関しては就職を希望した学生は、全て希望の就職先に就職ができている。

【今後の改善方策】

学生の状況も変化しており、無理をしない、最小の努力で終わらせたいなど、学習への取り組みが不足している学生が増加している。学習意欲を引きだす関りや丁寧な学習指導など指導方法を検討していく。前述の養成する人材像の明確化とともに、教育評価の方法を検討する。

大項目3. 学生の受入れ、学生支援

小項目	評価の基準	評価結果
1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、可否を決定していること。	2
	②学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。 【注】修学支援新制度機関要件の確認】	2

【評価結果の分析】

入学者の受け入れについては、入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を定め、学校案内・募集要項に明記している。入学試験については、入学試験に関する規程を整備し、入試委員会にて検討し、実施している。可否の決定にあたっては、入試委員会にてアドミッション・ポリシーをふまえ、学力の3要素に基づく評価を調査書、面接、小論文、筆記試験等にて審査し、厳正な選考を行っている。

令和8年度は入学定員50名に対し52名の入学者を予定しており、適正であると考えている。

【今後の改善方策】

令和8年度の入学者の選抜において、志願者は令和7年度より大幅に減少した。少子化と看護師志望者が減少する中でアドミッション・ポリシーに沿った入学生を確保するための方策を検討することが喫緊の課題である。

小項目	評価の基準	評価結果
2 自主的な学習の促進に対する支援	学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取り組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	2

【評価結果の分析】

入学予定者に対しては課題を提示し入学前準備を行っている。

学習支援については、クラス担任制をとり学習支援、日常生活支援を行っている。また、3学年を縦割りにして編成した学生15名程度を1グループとし、教員1名が担当する小集団での活動の機会を設け、学習支援の場としている。

シラバスについては入学時に配布、活用方法を説明し自己学習に活かせるようにしている。令和8年度からはポータルシステム(UNIVERSAL PASSPORT)での閲覧が可能となるよう準備している。

【今後の改善方策】

令和7年度の「看護師養成所におけるDX効果検証事業」においてポータルシステムを導入し、一部運用を開始した。8年度から本格運用を予定しており、シラバス・カリキュラムマップの閲覧、成績管理、GPA導入、学生の目標管理、模擬試験結果(3年生)などシステムを活用した学生の学修支援を図る予定である。今後はこれらの機能の効果的な活用と個々の学生に応じた支援を行っていくことが課題である。

小項目	評価の基準	評価結果
3 多様な学生に対する支援	①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。	2

【評価結果の分析】

全学生に対し、教員による2回/年以上の面接を実施し、困っていること等を聞く機会を設けている。また、学習上に課題のある学生に関しては教務会議等で対応を検討し、全教員が支援を行えるようにしている。また、令和6年度から「障害のある学生の支援に関するガイドライン」を策定し、障害のある学生に対する支援体制を整えている。

海外からの留学生の受け入れに関しては、看護師等養成所の運営に関するガイドラインにおいて、指定規則に定める専任教員に加えて、必要に応じて担当する専任教員をおくこと、また十分な支援や指導を行えるよう必要な体制を整備すること、とされており、現状では受け入れは困難な状況である。

社会人経験のある学生は、他の学生とのギャップ等による修学上の葛藤等を感じる場面もあると考える。上記の面談等、相談の場を設けているが、社会人経験のある学生のニーズの把握までには至っていない。

【今後の改善方策】

障害の有無に関わらず学修上困難を抱えている学生に対し、学習状況の把握や面談を通して必要な支援を行っていく。海外からの留学生の受け入れに関しては、現段階では検討していない。

小項目	評価の基準	評価結果
4 学修成果目標の達成状況	①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	2
	②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	2
	③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	2
	④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	2
	⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	2

【評価結果の分析】

月に1回、カウンセラーを配置し学生の相談に対応している。緊急時や複数の学生の相談がある場合などは臨時にカウンセラーに来校を依頼し対応している。

留年者に対しては学習意欲の継続、学習に関する支援を行っている。退学希望者については、学業不振ではなく、看護師をめざさないことが理由であるケースが多く、突然の申し出に保護者も教員も驚く状況がある。また、カウンセラーにも相談する機会を設けているが、対応に悩むケースもある。

学校保健については、健康管理規定をもとに学校医と相談しながら学生の健康管理に努めている。

学生の経済面の支援については、修学支援新制度対象校・専門実践教育訓練指定講座となっており、支援体制は整備されている。また、適切に周知、運用している。

キャリア支援については、キャリア支援計画を立案し、1年次から計画的に取り組んでいる。また、1年次には希望者、2・3年次には全員を対象とした面談を行い、支援体制を確立している。

【今後の改善方策】

学生の心身の健康を守るために、カウンセラーや学校医の協力を得ながら健康管理を行っているが、令和7年度は突然の退学者が多かった。入学前からのキャリア支援の必要性を感じており、小中高生を対象にしたキャリア支援の場にも積極的な参加を行っていく。

大項目4. 教育実施組織・教員

小項目	評価の基準	評価結果
1 教員の配置、募集、採用	①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。	2
	②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数、等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。	2

【評価結果の分析】

本校の総定員は150人であり、看護師等養成所の運営に関するガイドラインを満たす専任教員数は9人以上である。令和7年5月1日現在の教員数は13人であり、1人は専任教員養成講習会を受講中、1名は未受講ではあるが、ガイドラインの必要数を上回っており、教育目的を達成するために必要十分な教員を確保している。非常勤講師については、担当する科目に関する学識経験を有する講師を選任している。

専任教員の授業および実習指導時間は年間計画を立案し、過重にならないよう調整している。また、看護師等養成所の運営に関するガイドラインに基づき、1人1週当たり15時間を超えない時間としている。技術演習においては、1人の教員が全学生を指導することが困難であることから、複数の教員を配置し学生の指導にあたっている。

教員の採用にあたっては、専門性と教育経験をもとに採用を行っている。

【今後の改善方策】

専任教員については、教員の経験や専門性をもとに担当を決定しているが、各教員の担当領域の専門性を高めていくことが必要である。

小項目	評価の基準	評価結果
2 教員の組織編制等	①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	2
	②教員間で連携、協力体制を構築していること。	2

【評価結果の分析】

専門分野においては、8領域すべてに担当教員を配置、明記し、専門領域の講義・演習、実習指導を行っている。専門領域以外の授業を担当する場合は、担当者との相談や打ち合わせを行い、実習指導については、実習指導要綱をもとに教員間の事前打合せ、実習期間中のミーティングを行っている。学内の業務についても担当者を定め、業務分担を行い、必要時には教員間で連携をとっている。

【今後の改善方策】

令和8年度は専任教員の担当領域の変更、実習施設の変更等が予定されているため、前任者との引き継ぎや相談体制を整えることが必要である。

小項目	評価の基準	評価結果
3 教員の資質の向上	①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	2

	特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的にやっていること。 【注）職業実践専門課程】	2
	②教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にやっていること。 【注）職業実践専門課程】	2

【評価結果の分析】

令和7年度は「看護師養成所におけるDX効果検証事業」で導入されたICT機器を活用した授業を実施するため、担当教員以外の教員も協力した授業を展開した。その結果、教育内容や教育方法の検討につながった場面もみられた。

本校では、教育内容及び手法の改善や工夫、教員の資質向上に繋がるよう研修を推奨している。学内での研修会は開催できなかったが、企業等と連携して令和7年度は12件の研修・学会に参加している。また、研修費等は学校が負担することで全教員が参加しやすいようにしている。

【今後の改善方策】

令和7年度に引き続き、ICTを活用した教育の検討を進めていく。また、令和7年度は教育に関する研修への参加が多かったが、今後は専門領域の研修等への参加を促していくことが必要である。また、令和7年度はWi-Fi設備等を整えており、企業と連携したオンラインでの研修も推奨していきたい。

大項目5. 教育環境

小項目	評価の基準	評価結果
1 教育環境の整備	①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	2
	②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。	2
	③ 図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。	2

【評価結果の分析】

教育上必要な機械器具等については、看護師等養成所の運営に関するガイドライン別表9に定められており、本校はそれらをすべて備えている。また、令和7年度は「看護師養成所におけるDX効果検証事業」に選出され、校内のWi-Fi設備、デブリーフィングシステム&データ管理システム、ビジネスプロジェクター等のICT機器を整備した。

学生の学習のためには、放課後の教室・実習室の使用を認めている。図書室についても、昼休みや放課後の利用が可能であり、必要な専門書や参考書を整備している。

【今後の改善方策】

令和8年4月に本校を運営する法人が大学を開学する予定である。大学の図書室については本校の学生・教職員の利用が認められる予定であり、学生の学習環境としてさらに利便性が向上と思われる。

小項目	評価の基準	評価結果
2 安全対策、防災組織	①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	2
	②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。	2

【評価結果の分析】

学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、運用している。特に感染症については、実習施設と事前に打ち合わせを行い感染拡大につながらないよう十分配慮している。

防災に関する組織体制や安全管理マニュアルを整備し、災害時の対策に関する計画立案に基づき、防災訓練を年に1回実施している。また、防災・防犯設備においても整備や点検、更新を行っている。

【今後の改善方策】

大規模災害を想定した防災マニュアルの見直し、学生及び教職員の安否確認体制の構築が課題である。

小項目	評価の基準	評価結果
3 施設・設備等の点検、改善等	①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。	2
	②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。	2

【評価結果の分析】

校舎の点検を実施し、異常があった箇所はその都度修理等を実施している。令和7年は、8月の豪雨により1階部分の浸水被害が生じた。排水管の清掃、浸水被害のあったエレベータの部品の交換、1階廊下・図書室・副学校長室の床材の張替え、ロビーのソファ・テーブルの入れ替えを実施した。

【今後の改善方策】

2027年末の照明用蛍光灯の製造・輸出入禁止に伴い、学内の照明設備を計画的にLED照明に移行する予定である。

大項目6. 教育活動の基盤と改善・向上の取組

小項目	評価の基準	評価結果
1 中期事業計画と財務基盤	①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	2
	②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	2

【評価結果の分析】

ホームページに公開している財務諸表のとおり学校の財政基盤は安定している。事業年度開始にあたって教育機器・教材の購入を年間予算に計上し、計画的・優先的に購入し教育活動が遂行できるようにしている。

【今後の改善方策】

今後も学生の確保を図り、継続して中期的な財政基盤の安定に努めていく。

小項目	評価の基準	評価結果
2 学校運営	学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)	2

【評価結果の分析】

本法人では、法人組織と学校組織の権限と責任が明確に区分されている。寄附行為に基づき、法人の最高意思決定機関としての理事会を設置し、諮問機関としての評議員会を設置し、定期的を開催している。さらに、常任理事会を設置し、理事会決議事項の執行に関する事項、理事会の議決を要しない常務に関する事項等について審議、決裁を行い、円滑な運営を行っている。本法人の業務に対する自己管理の充実を図り、本学委の業務の適正かつ合理的な実施を維持するための監査機関として、内部監査室を設けた。

学校運営に関しては、学校長を責任者とする組織体制を整備し、教育の企画、運営を行っている。運営においては、諸会議に関する規程をもとに、運営会議、教務会議、実習指導者会議等の会議を開催し、意思決定を行っている。

【今後の改善方策】

法人本部との連携をとりながら、学校運営を行っていく。

小項目	評価の基準	評価結果
3 学校評価の実施と改善活動	①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。	2
	特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。 【注】職業実践専門課程】	3
	②学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	2
	③学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	2

【評価結果の分析】

学校教育法の一部改正に伴い、自己点検評価、関係者評価に関して教職員へ周知を図った。また自己点検評価については評価方法を改訂された専修学校における学校評価ガイドラインに準じて実施することとした。

自己点検評価については、全教職員の意見を反映できるようにしている。

学校関係者評価は年に1回開催し、自己評価及び学校運営に関する意見をいただき学校運営に反映している。

本校は令和6年度から教育課程編成委員会を設置し、年に2回委員会を開催している。職業実践専門課程の認定は受けていないが、教育課程編成委員会を設け、職能団体の役職者(福岡県看護協会会長)、有識者(看護大学准教授)実務に関する企業の有識者(実習施設の指導担当者)から意見をいただき、教育に反映している取り組みをもって3と評価した。

なお、自己点検評価、及び学校関係者評価結果についてはホームページにて公表している。

【今後の改善方策】

専修学校における学校評価ガイドラインに則して実施した自己点検評価を一層充実させるとともに、評価結果に基づく改善に取り組んでいく。また、第三者評価の実施に関する情報収集を行っていく。

小項目	評価の基準	評価結果
4 社会からの理解と情報の公表	①当該専修学校の教育活動、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	2
	②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取り組んでいること。	2

【評価結果の分析】

教育活動については、適宜ホームページを更新し、財務、自己点検評価結果、関係者評価結果をホームページにて公表している。

小中高校で行われる夢授業のボランティア活動、北九州市の主催するゆめみらいワークなど、看護及び看護教育への理解が得られるよう参加している。また、学生や教職員は、地域活動の場に積極的に参加し、地域や社会からの理解を得るように取り組んでいる。

【今後の改善方策】

看護職者・教員・学生・企業の交流の場に積極的に参加し、社会全体からの理解を得られるように取り組む。